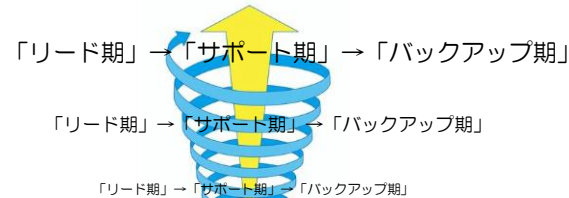


<「自律した学び手」育成のためのポイント>

- 1 リード期「教師がきちんと教える」
 - ・知識、技能の習得
 - ・学習への興味付け
 - ・学び方のスキルの伝達 等
- 2 サポート期「子どもたちに寄り添う」
 - ・適度な指示、声かけ
- 3 バックアップ期「手を離しても目を離さない」
 - ・一人一人の取組に目を配る

自律した学び手



◆働きやすい職場環境を目指した

質の高い効率的な組織運営の実現

- ◇ 個々の長所を活かした組織的な学校運営の実現
 - チーム担任制の実施
 - OJTとOff-JTによる研修の充実
- ◇ 働き方改革に対応した効率的な組織運営
 - 業務の見直しと業務改善（分担・組織的連携の効率化）
 - 業務の複数担当によるOJTの推進（業務継承についての組織的改善）
 - 外部人材の積極的有効的活用による業務改善
 - ICT機器を活用した事務処理の効率化



【学校教育目標】 ともにのびる子 ともにひらく子

【重点目標】

自律した子・多様性を認め合える子の育成

◆目指す子ども像（行動指標）

【低学年】

- ・時間を守る
- ・係や当番の仕事ができる
- ・人の話を聞くことができる
- ・指示を聞いて行動できる
- ・思いどおりにいかなくても、やるべきことができる
- ・人のことは気にせず、自分のことができる
- ・友達の話を聞くことができる

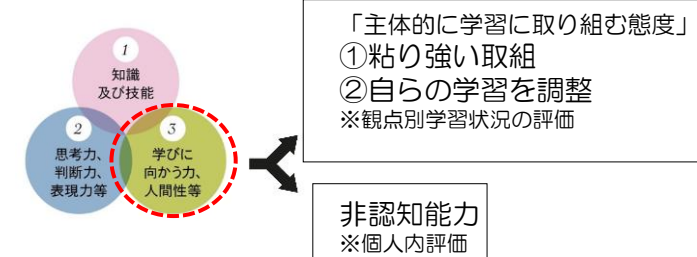
【中学年】

- ・人の話を聞くことができる
- ・学校の決まりを守る
- ・自主的に行動できる
- ・柔軟に物事を考えられる
- ・人の話を聞くことができる
- ・友達の良さを認めることができる

【高学年】

- ・規範意識を高めることで「なりたい自分」に近づくことができる
- ・自主性を高めることで「なりたい自分」に近づくことができる
- ・協働性を高めることで「なりたい自分」に近づくことができる

学習指導要領「育む3つの資質・能力」



◆「自律した学び手」を目指した 質の高い魅力的な教育活動の創造

◇ 自己調整力を養う

- 学び方を学ぶ授業の実施
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の工夫
- 多様な学び方の選択肢を提供し、学習者自身が学びを調整することで個別最適な学習環境を構築する「学びのユニバーサルデザイン」の構築
- 「自律した学び」を促す家庭学習の工夫

◇ 自治力を養う

- 委員会活動、係活動の自主運営
- 当事者意識をもたせるための学級活動の工夫

◇ 多様性を受け止め、他を尊重する資質を養う

- 人権教育、同和教育の推進
- SSEを中核に据えた人間関係作り能力の向上
- 共同学習・交流学习の充実
- 教育相談体制の充実

◇ 社会における自己の生き方を考える

- アントレプレナーシップ教育の充実
 - ・関係人口創出事業実行委員会との連携
 - ・まちづくり協議会との連携
- 生活科を中核に据えた合科的な活動
 - ・保育園と連携した架け橋プログラム